

『いのちを大切に、進んで学ぶ、素直でたくましい子どもの育成』



NO 10

令和6年10月31日

文責：喜多三郎

島五小だより ふるさと安中大好き！

～すなおさいっぱい かしこさいっぱい たくましさいっぱい～

○ 実りの秋

田んぼの稲刈りもすっかり終わり、新米がおいしい季節となりました。朝晩は随分と冷え込み、いよいよ冬の到来を感じさせます。急な気温の低下や季節の変わり目にあたり、継続したコロナやインフルエンザ等、感染症対策とあわせて、子どもたちの体調管理にもくれぐれも気を配りながら、教育活動を展開してまいります。

本校において、各学年で校外におけるさまざまな体験学習を、ほぼ予定どおり実施いたしました。子どもたちにとって、日頃、学校の学習では体験できない学び等、子どもたちにとっての収穫の秋を大いに満喫することができました。弁当や準備物など、各家庭でのご理解・ご協力ありがとうございました。

○ 6年生修学旅行

10月22日(火)～23日(水)にかけて、6年生は修学旅行へ出かけました。1日目の目的地は、佐賀県の宇宙科学館や吉野ヶ里歴史公園を探索しました。そして、大刀洗平和祈念館に立ち寄り、見学したりや朗読劇を見たり聴いたりしながら、戦争の悲惨さや平和の大切さを再確認していました。2日目の目的地は、キッザニア福岡です。子どもたちはいろいろな職業体験学習をとおして、自分の将来に生かしたり、自分自身の見識を深めたりしていました。みんな元気に参加し、心配された天候にも恵まれ、けがや事故等もなく無事に終了することができました。小学校生活の集大成として、また、日頃の学校生活では行うことのできない貴重な体験学習となりました。何よりも、子どもたちの行動は素晴らしく、心構えや事前準備等しっかり行っており、どこへ行っても意欲的な態度が素晴らしかったです。さすが、安中っ子です。子どもたちにとっては、クラスの仲間とかけがえのないたくさんの思い出をつくることができたことと思います。ホテルでのおいしい料理をたくさん堪能し、食欲の秋にもなっ

たのではないのでしょうか。無事に実施できたのも、日頃から、地域・家庭の皆様方のご支援・ご協力のおかげと深く感謝いたします。



○ 『読書週間』(10月27日～11月9日)

【今年の読書標語】

『この一行に逢いにきた』

第1回の読書週間が開催されたのは、終戦まもない1947(昭和22)年です。「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という志のもと、出版社や取次会社、書店、公共図書館を中心に、新聞社や放送局なども協力して行われました。期間は11月17日～23日の1週間でした。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日(文化の日を中心にした2週間)と定められ、この運動は全国に広がっていきました。

本校においても、読書に親しみ、本のおもしろさや楽しさを味わい、読書の習慣を身につけさせることをねらいに読書週間の取組を行います。児童会の図書委員会が中心となり、読書に親しむ様々な取組を行い、全校みんなにひろげています。期間中、10月31日(木)には、読書集会を行いました。

『読書の秋』、読書をすると脳にたくさんの栄養がいき、脳がよく働くのだそうです。記憶力や集中力、そして、会話力も伸びると言われます。また、心の栄養とも言われます。相手の心を思いやる想像力も育つと言われます。ぜひ、ご家庭でも、家族読書やブックトークなど、子どもと共に読書に親しみ、脳にも心にも栄養を与え成長させましょう。